



AG-3DA1

## “3D 事業の「牽引役」を担うカメラ” 心に残る 3D 映像に向けた継続的な取り組みを

### 株式会社 NTT ぷらら

株式会社 NTT ぷららは 2010 年 6 月から、同社が運営する映像配信サービス「ひかりTV」の VOD サービスおよびテレビサービス（専門チャンネル）において、3D 映像作品の提供をスタートしている。それに伴い、3D 制作に向けた撮影機材としてパナソニックの一体型二眼式 3D カメラレコーダー [AG-3DA1] を導入した。

同社 映像ビジネス本部 コンテンツ戦略部 コンテンツ制作室長の小川貴史氏は、「[AG-3DA1] は当社の 3D 制作における牽引役を担っています」と話す。同カメラの導入をキッカケに、より活発な 3D 制作が行われ、そこでの経験値がまた新しい企画の開発につながっていく、という好循環が生まれつつあるという。

[AG-3DA1] については、ファッションショー『Girls Award 2010』、ライブ中継『阪神タイガース対 東京ヤクルトスワローズ』で活用した際、その特性を確認・実感したことから正式導入を決めたもので、その後、野外ライブイベント『AKB 48 東京 秋祭り』の 3D 収録も行っている。

同じく映像ビジネス本部 コンテンツ戦略部 コンテンツ制作室の浜名貴志氏は、[AG-3DA1] のポイントについて「機動力と映像のクオリティ」と評し、「ハンディでも固定でもキチンとした 3D 撮影が出来るというのは [AG-3DA1] の利点」と続ける。

2010 年 10 月には、3D 事業を次のステージに進めるための取り組みとして、トルコでの海外撮影に臨んだ。音楽家の演奏風景とともに世界遺産を収録するという内容で、現地に赴いた浜名氏は「これまでの 3D 制作は、どうしても複雑な手順を要していましたが、



小川貴史氏

浜名貴志氏



[AG-3DA1] の登場によって、その手順がかなりシンプルになったという感触があります。それは、限られた時間の中で海外ロケを行う、といった今回のようなケースで大きな威力を発揮します。その分、様々な試行錯誤にもチャレンジできる。これは Rig 撮影にはないメリット」とし、トルコでは同じカットでコンバージョンポイントを変えて収録するといった試みが行われた。

スポーツのライブ中継や音楽・ファッションのイベント収録など、実作業の中でこそ得られる発見やスキル。それは NTT ぷららの大きなアドバンテージとなっている。小川氏は「実績を積み重ねていくということは、カメラの可能性だけでなく、それを使うスタッフの可能性も広げることにもつながる。そういった人材育成も含めたアドバンテージが当社にはあるということ」と付け加える。コンテンツ制作室のメンバーは、撮影の部分だけでなく、プロデューサーとして編集作業も含めた全体のワークフローへの意識を常に持つことを心掛けているという。

また、3D 映像における 1 つのハードルとして、“制作したものの、どこで見せるのか” というアウトプットの問題がある。その意味において、NTT ぷららの大きな強みとして挙げられるのが、VOD や放送など様々な方法で 3D 映像を提供できる環境を整備していること。「今後も、質の高い 3D 映像を VOD 作品や独自編成チャンネルを通じて提供していくことで、当社の映像サービスをより多くの人たちに楽しんでいただければ」（浜名氏）。特に、VOD サービスについては「見たい人が、見たいときにそのコンテンツを見ることが出来る。これは、3D に適していると捉えています。コンテンツを最初からキチンと高品質なカタチで見てもらえるわけですから」と小川氏は話す。

そして、「何を 3D で撮るのが一番相応しいのか？」ということは常に考えています。3D の発展に寄与していくためにも、[AG-3DA1] を活用した心に残る 3D 映像をこれからも模索していきたい」と両氏は語る。